

ごあいさつ

慶應義塾大学医学部外科学 北川 雄光

昨年度より日本創傷治癒学会理事を拝命しております慶應義塾大学医学部外科の北川雄光です。先日、記念すべき第40回日本創傷治癒学会が、日本医科大学形成外科教授百束比古会長のリーダーシップのもと盛大に開催されました。数多くの分野の最先端の研究をコンパクトにまとめる作業にはさぞご苦労されたことと思いますが、参加者にとっては、さまざまな知見を効率よく勉強できる貴重な機会になったのではないかと思います。本学会のこの伝統をさらに発展させ社会に還元できるよう、広く会員・評議員の先生方の声に耳を傾け、これを学会運営に反映しながら、微力ではありますが全力を尽くす所存であります。先生方のご指導とご支援賜りますようお願い申し上げます。

私も慶應義塾大学一般・消化器外科は、本学会では主に消化管の創傷治癒や再生を中心に研究を進めてまいりました。特に私の前任の北島政樹名誉理事長は、レジデントの時代から消化管の創傷治癒の実験をはじめ、ライフワークの一つとして今日も研究を進めております。その持論は、臨床上の疑問を実験で明らかにし臨床にフィードバックする、というものであります。この伝統は教室員に受け継がれ、多くのOBとともに創傷治癒学の分野で取り組んでいるところであります。現在教室では、再生医療の技術を取り入れた新たな研究テーマにも取り組んでいるところであり、本学会で情報発信していきたいと思っております。

日本創傷治癒学会は、創傷治癒という研究領域において基礎科学者、臨床医、関連職種など幅広い分野の研究者が1つの場で討論するという、とてもユニークな横断的な学会であります。臓器については皮膚だけにとどまらず内臓の創傷治癒も取扱い、研究手法も明日からの臨床に直接役立つ実践的なものから、再生医療のような最先端の基礎的研究まであり学際的です。日ごろ接することのない分野の発表から得られる貴重な情報が、本学会で融合することで、新たな知見を生み出す可能性を秘めていると言えます。本学会の大きな特徴ともいえるこの学際性は守るべき伝統として堅持しつつ、本学会のさらなる発展に向けて課題は山積しております。近年の経済環境の変化に伴い、学会の財政基盤も決して盤石とはいえない状況であります。今年度は事務局で学会誌の電子ジャーナル



NEWS LETTER

日本創傷治癒学会

2011.2
No.61

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学医学部外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3355-4707

e-mail: info@jswh.com

URL: <http://www.jswh.com>

化を進め収支の改善を図ってまいりますが、これだけでは十分とはいえません。専門医制度や技術認定制度の導入により会員数が増加すれば学会の財政安定が期待できますが、いたずらに認定制度を増やしていくことの是非もよく検討する必要があります。学会の社会的役割の推進や透明性確保のためには社団法人化も避けて通れず、事務局のあり方も再検討しなければならないと考えております。私たちの学会はWound Repair and Regeneration誌をofficial journalとし、また創傷治癒学を横断的に取り扱う唯一の学会であることから、この分野でわが国を代表する学会と位置付けられ、国際的な連携も引き続き発展させていかなければなりません。

本学会は長年、私ども慶應が事務局を務めさせていただいております。最近、事務局長や担当秘書の交代が重なり、諸先生方には何かとご迷惑をおかけしているのではないかと存じます。この場を借りてお詫び申し上げます。引き続き理事のひとりとして事務局とともに、我が国の創傷治癒学の発展と社会貢献のため、徳永昭理事長を補佐し、会員・評議員のみなさまのためにも尽力して参りたいと存じます。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume18.5に掲載されました。論文名、著者(筆頭執筆者または第2執筆者)は下記の通りです。

投稿規程に関しましてはジャーナルホームページ、<http://www.wiley.com/bw/journal.asp?ref=1067-1927&site=1>より入手してください。また各巻頭に掲載されておりますInformation for authorsをご参照下さい。なお、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

石原 雅之 先生(防衛医科大学校研究センター 医療工学部門)

Enhanced healing of mitomycin C-treated healing-impaired wounds in rats with hydrosheets composed of chitin/chitosan, fucoidan, and alginate as wound dressings
P. 478~P485

第40回日本創傷治癒学会 学会賞・研究奨励賞受賞者（五十音順・敬称略）

【学会賞】2名

- 高木 元 （日本医科大学 再生医療科）
『再生誘導医療基礎研究の实践的臨床応用』
- 森本 尚樹 （京都大学大学院医学研究科 形成外科）
『細胞成長因子保持、徐放機能を持つ足場材料の開発』

【研究奨励賞】2名

- 岡部 圭介 （慶應義塾大学医学部 形成外科）
『マウス胎仔の皮膚創傷治療に好中球が及ぼす影響』
- 仲上 豪二郎（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
老年看護学/創傷看護学分野）
『緑膿菌クオラムセンシングシグナルによるMMP発現制御機構の解明』

第41回 日本創傷治癒学会のお知らせ

■大会長：吉村陽子（藤田保健衛生大学形成外科教授）

■会 期：2011年（平成23年）12月5日～6日

■会 場：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-38

TEL 052-571-6131 FAX 052-571-6132

■学会事務局

事務局長：米田 敬

〒454-8509 愛知県名古屋市中川区尾頭橋3-6-10

TEL 052-321-8171

■学会運営事務局

担当者名：株式会社コングレ 広間みゆき

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-13 栄第一生命ビルディング 8階

TEL 052-950-3369 FAX 052-950-3370